

2026 年度 卒業論文

卒業論文タイトル

English Thesis Title

中部大学 工学部 情報工学科

宇佐美研究室

EP00000 宇佐美研 太郎

Taro Usamilab

指導教員 宇佐美 裕康

2027 年 2 月

概要

卒業論文タイトル

EP00000 宇佐美研 太郎

本研究の背景，目的，方法，主要な結果，結論を，この順序を基本として記述する．本文を読まなくても研究の価値と得られた知見が判断できるように，対象，条件，評価指標，主要な定量結果を具体的に示す．未実施の評価や将来課題を結果として書かない．

キーワード：キーワード 1，キーワード 2，キーワード 3

目次

第 1 章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	本研究の貢献	1
第 2 章	背景・関連研究	2
2.1	技術的背景	2
2.2	関連研究	2
第 3 章	問題設定	3
第 4 章	提案手法	4
4.1	アルゴリズム	4
第 5 章	実験・評価	5
第 6 章	おわりに	6
付録 A	補足資料	7
	謝辞	8
	参考文献	9

图目次

表目次

5.1	結果表の例. 最良値だけでなく分散または信頼区間も示す.	5
-----	--------------------------------------	---

第 1 章

はじめに

研究背景，未解決問題，研究目的，貢献，論文構成を記す．「何を行ったか」だけでなく，「なぜ既存手法では不十分か」を明確にする．

1.1 研究背景

対象領域の重要性を，必要に応じて統計や先行研究に基づいて説明する [1]．

1.2 本研究の貢献

本研究の主要な貢献を，検証可能な文として 2～4 項目に整理する．

第 2 章

背景・関連研究

問題を理解するために必要な技術的背景と，提案の位置づけに必要な関連研究を分けて記す．先行研究の列挙で終えず，前提，利点，限界，今回との差分を同じ軸で比較する．

2.1 技術的背景

記号と用語を定義し，後続章で同じ意味に固定する．

2.2 関連研究

比較表を用いる場合は，公平な条件と一次資料に基づいて整理する．

第 3 章

問題設定

入力, 出力, 利用可能な情報, 制約, 評価対象を数式または擬似コードで定義する.

$$\hat{y} = f_{\theta}(x), \quad \theta^* = \arg \min_{\theta} \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N \mathcal{L}(f_{\theta}(x_i), y_i). \quad (3.1)$$

学習時と推論時で利用できる情報が異なる場合は, ここで明示する.

第 4 章

提案手法

提案手法を，概要，構成要素，学習・最適化手順，推論手順の順に説明する．図中の記号と本文中の記号を一致させる．

4.1 アルゴリズム

Listing 4.1 処理手順の例

```
1 def predict(model, observation):  
2     representation = model.encode(observation)  
3     return model.decode(representation)
```

第 5 章

実験・評価

データ，分割，前処理，比較手法，実装条件，評価指標，統計的扱いを，再現可能な粒度で記す．

定量評価，定性評価，失敗例，限界を分離する．

表 5.1 結果表の例．最良値だけでなく分散または信頼区間も示す．

手法	指標 A ↑	指標 B ↓
比較手法	0.80	0.20
提案手法	0.85	0.15

第 6 章

おわりに

研究目的に対して何が明らかになったかをまとめる．本文で検証していない主張を追加しない．今後の課題は，未解決の理由と検証方法まで示す．

付録 A

補足資料

本文の再現性を支える追加条件，疑似コード，補足実験などを必要に応じて置く．

謝辞

研究の遂行にあたり支援を受けた方々と組織への謝意を，具体的かつ簡潔に記す．

参考文献

- [1] T. Sample and H. Example, “Replace this entry with a primary source used in the thesis,” *Journal of Reproducible Examples*, vol. 1, no. 1, pp. 1–10, 2024. DOI: [10.0000/example.2024.001](https://doi.org/10.0000/example.2024.001).